



今年6月末で梅雨が明け、7月1日に38.4度と大阪7月の最高気温を更新してすぐの戻り梅雨。これも地球の気温が上がっているからなのでしょう。。上がっているといえば、インフレで世界的な物価高。日本でも連日物価高の報道がなされています。ビックマック(BM)も今や390円と高くなったなあという人もありますがアメリカでは5.81ドルで日本円で790円！米国と日本のBMは同じなのになんで？・・・経済学者が作り出したビックマック指数(BMI)を利用すると、BM価格から計算される円(¥)とドル(\$)の関係は390(¥)÷5.81(\$)⇒1ドル67.1円。BMIに対する購買力が米国も日本も同じと考えると、現在の為替1ドル134円は異常な円安。コロナも明けて海外旅行と考える人も多いようですが割高感否めません。また、円安のほかに海外への足かせになる次なる脅威も迫っています。

1970年にアフリカザイールで人に感染が始まったとされるサル痘ですが、現在アフリカを超えて感染拡大しています。現在ヨーロッパを中心に世界50か国5399人(6/30時点)の感染が確認できていて韓国、シンガポール、台湾でも感染者の報告があったことから日本に近々患者が発生する可能性があります。日本ではマラリアなどと同様の4類感染症に分類され保健所への届け出をしなければなりません。

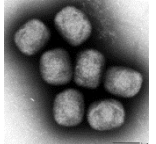
彼を知らず
己を知らず
始る戦は
殆ど必ず
敗れる

潜伏期7-14日を経て、発熱、頭痛、リンパ節腫脹を来し、発熱後に顔面や四肢を中心に発疹が出現するといわれています。しかし非典型例として、熱が出ず、皮疹が肛門、性器周囲に限局した病変で広がらないこともあるようですから、臨床所見だけで診断することは難しいでしょう。

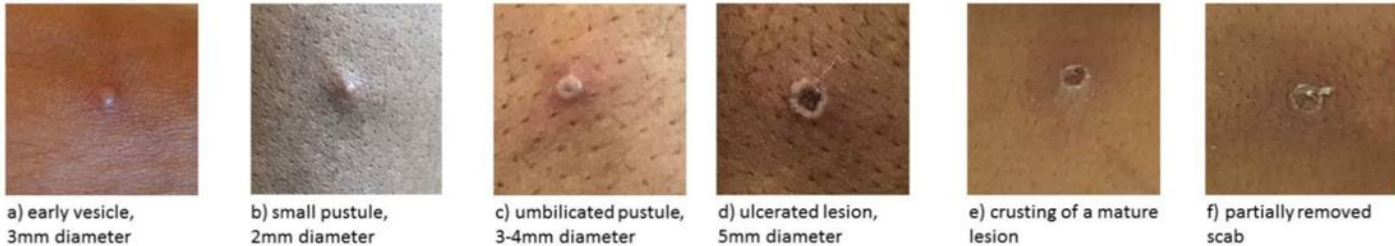


感染経路は主に接触感染、患者が使用した寝具などからも感染します。飛沫でも感染するため注意が必要で、患者に多く接する医療従事者の中で感染が広がりやすいとも言われています。診断には皮膚病変からのPCRがありますが、国立感染症研究所だけで検査ができるようです。

サル痘ウイルスの電子顕微鏡写真



国立感染症研究所ホームページより引用



欧米からの帰国後で、熱の後に上記のような湿疹が出てきたら要注意

サル痘は天然痘の親戚のような感染症で、弱毒で感染力も低いと言われています。天然痘ワクチンが感染予防及び重症化予防に有効と言われていますが、日本では昭和51年以降にワクチン接種が終了しているため、小生含め多くの日本人(特に若年者で)では免疫がありません。

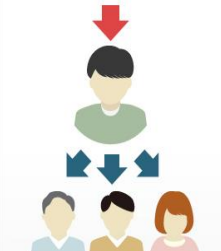
サル痘の感染経路

NHK



ネズミ・リスなど

- ▼感染した動物にかまれる
- ▼血液、体液、発疹に触れる



- ▼感染した人の発疹、体液、寝具、衣類などに接触
- ▼近距離で飛まつを浴びる

同性愛者の性交渉、医療現場、サウナなど



臨床の現場で「ニキビのような湿疹＋発熱」でサル痘を疑うとなれば、疑い患者は爆発的に増えてしまいます。現在EUでは天然痘ワクチンの供給が始まっています。日本でも我々医療者にワクチン接種が推奨される日が来るかもしれません。

日本では予防は天然痘ワクチン、治療方法は対症療法

先進国でサル痘に感染して死亡した人の報告はありません。しかし免疫力の低下している患者では重症化や死亡リスクがあるでしょう。隔離は病巣が痂皮化し、かさぶたが落ち、その下に新しい皮膚の層が形成されるまで継続する必要があります